

現代政治の 이슈ー（政治学現地研修・福島）実施報告書

2025 年 9 月 23 日

武田 知己

2025 年度の「現代政治の 이슈ー（政治学現地研修・福島）」は、9 月 1 日から 3 日にかけて、総勢 23 名の参加学生とともに、無事現地研修を終えました。

<事前学習>

1 回目：5 月 10 日（土曜日）16:30-17:30 ズーム

自己紹介、行程確認

2 回目：8 月 30 日（土曜日）10:55-14:45 4 号館 208（AL 教室）

参加費徴収、映像「Fukushima50」視聴後、ディスカッション

<現地研修行程>

■ 9 月 1 日（月）



埼玉県東松山市高坂駅 6 時 20 分
集合（6 時 30 分出発） === 7 時
20 分大東文化大学板橋校舎集合 7
時 30 分出発 ===（途中、朝食・
昼食購入 30 分。各自） === 11:30
廃炉資料館到着・福島第一原子力
発電所視察 16:00 ===（バスで移
動） === 16 時半ほっと大熊 ===
（休憩） === 17 時 45 分フロ
ント集合（バスで移動） === 18
時 00 分くま SUN テラスの飲食店

で夕食（各自） ===（シャトルバスで寄宿。無料 19 時 40 分、20 時 52 分、21 時 30 分。
各自） === 自由

■ 9 月 2 日（火）

朝食 8 時 00 分 === 8 時 45 分ほっと大熊ロビー集合 === 9 時 00 分渡部一也氏講演会
（Link る大熊研修室）10 時 30 分 ===（バスで移動） === 10 時 30 分植樹体験 12 時 30
分 ===（バスで移動） === 12 時 45 分くま SUN テラスで昼食 13 時 45 分 === 14 時
00 分村田泰樹氏講演会 16 時 30 分（Link る大熊研修室 ※体調不良でキャンセル） ===
（休憩） === 18 時 30 分夕食（和食 さかい）20 時 00 分 === 自由時間

※渡部一也氏お迎え：研修室（予定）、8時45分、講演会は10時半迄

■ 9月3日（水）

09時00分朝食===10時00分ロビー集合
10時10分出発===10時20分中間貯蔵工事情報センター着：中間貯蔵施設・帰還困難区域視察（10時30分~12時30分）
===道の駅なみえで昼食・お土産（各自）
・散策 13時30分発===大東文化大学板橋キャンパス（大東文化会館）着（17時30分）
===埼玉県東松山市高坂駅（19時00分） ※解散

<事後学習>

2025年9月14日（日曜日）までに参加レポート提出

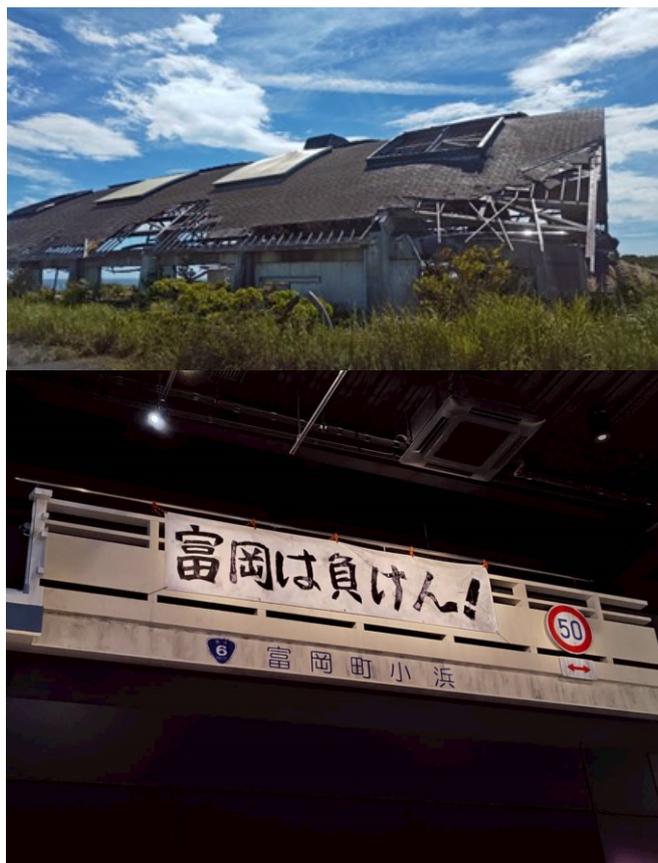
<総括>

参加学生に事後にレポートを書いてもらいました。現場に来て変わったことを特に意識してもらいました。

<初日>

・一日目には、廃炉資料館へ訪問し、職員の方にガイドをしてもらいながら、当時の状況や廃炉に向けた行程について学び、改めて原発事故の深刻さと長期的な課題、また廃炉作業がいかに困難で粘り強い取り組みであるかを実感した。また、原発周辺は線量が高いため一日に20分程度しか作業できないことを知ったときは驚愕した。この目で、実際に事故が起きた一号機、三号機、四号機を見たときは、事故の悲惨さを直に感じる事ができた。特に近年話題になっているALPS処理水は、排出までが大きく五段階に分かれており、それぞれが海洋排出に向けて必要不可欠であってその設備の構造に興味を持った。今後もあと何十年と廃炉作業が続く限り、それに伴いALPS処理水の量も増加し続けるため、定期的に海洋排出の状況などを調べ、廃炉作業が終わるまでこの目で見届けたい。

・福島第一原子力発電では知識・経験どちらの面でも様々な学びを得ることができました。知識の面では今福島第一原子力発電所がある所は元々森だったところの木を伐採して、崖を削って作られたという話は初めて知り、驚きました。またヘリポートがあるという話の中で福島医科大まで通常2時間かかるのにヘリであれば15分で着くという話にも驚きまし



た。経験の面では発電所内は撮影禁止になっており、入るときにはまず検問があってとても厳しい規制の中許されたとても貴重な機会であったと再認識できました。他にも少しでも違和感があったら無理に作業を続けず、1回みんなを確認という形をとっているという話を聞き、とても危険性の高いしっかり対策しなければならない作業なのだ強く感じました。

・次に、福島第一原子力発電所を訪れてみて、いろんなことを感じました。まず1つ目は、設備のセキュリティーの徹底が本当にすごいと思いました。私は、あのような徹底されている施設には行ったはいいったことがないので実際に色々な手続きを行って敷地内に入ったときは鳥肌が立ちました。また、セキュリティー以外でも作業員の被ばくの回避のための短時間の作業や違和感を覚えたらずくに報告する環境、車の検査を行い、クリーニングをするなどの徹底していることがとても素晴らしいと感じました。2つ目は、第一原発の1号機から4号機側のブルーデッキに行った際、14年前にここで原発の爆発と津波が押し押せていたことを考え、恐怖心と実感を覚えました。実際に見てみて、原発の建物自体がとても大きく、映画でもこれが爆発するシーンがあったが、この爆破はその現場にいた人は本当に怖かったと感じました。また、爆風で壊れてしまっていたものを見て、近くにいるだけで危険であったのにこの現場にいた人たちの覚悟というのがすごいものであると実感しました。3つ目は、この事故を得ての対策がよいと思いました。特に良いと思ったのは、津波の高さが想定を超えた際に堤防を再建設できるような仕組みにしているところとすぐに高台に逃げられるような道路の設計をしていることが経験を生かされており、素晴らしいと感じました。最後に、4つ目は、吉田さんがいた緊急対策本部の位置が原発から思ったよりも近かったのでここでも現場の人の覚悟がすごいと改めて感じました。



二日目

・9月2日は予定の変更もあったが、植樹などの事業を通して街の再建に勤しむ人たちの活動を知ることができた。植樹では桜の木を植えることによって震災で失われた景観を取りもどそうとする人々の姿にとっても感動した。資料館では震災当時の証言や資料を資料館で見ることができたことも良い機会であったといえよう。自分は8歳の時にこの震災を経験したが、正直地震しか経験していない自分は直接的な被害を受けていないことから、どこか他人事のようにこの震災を見ていた。中学校や高校の授業でこの震災について学ぶ際も自分はその時には生まれておらずリアルタイ

ムでは当時の様子は見てないというような意識であった。しかし、資料館で流れた当時の証言は十四年前の記憶を思い出させ、津波により家が流される様子や原発事故による計画停電の影響が出た話をしたりするなどよく考えれば自分の生活にも大きな影響を感じた瞬間であったと感じた。そして事故当時の街の建造物の一部が展示されており、津波の被害や地震の強さを実感することができた。

・研修2日目は、福島県で植樹活動を続ける渡辺一也氏の講演を受講し、午後には桜の植樹を体験した。渡辺氏は、震災以前から「環境をビジネスに織り込む」という欧州的な視点を取り入れ、林業の持続可能な経営に取り組んできた人物である。かつて林業は「最低最小の職業」と見なされることもあったが、渡辺氏はその価値を見直し、環境と経済の両立を目指して地道な活動を続けてきた。仕事が軌道に乗り始めた矢先、東日本大震災が発生し、福島県産の木材は放射線の影響によって市場から敬遠されるようになった。渡辺氏はその状況に対して、木々の放射線データを自ら収集し、工場へ提出することで安全性を証明し、徐々に流通を回復させていった。その努力は、単なる経済活動ではなく、福島環境を守り、地域の誇りを取り戻すための使命感に基づいており、私はその姿勢に深く感動した。講演では、町の森林ビジョンの策定やゼロカーボン政策の推進など、社会のニーズを形にすることで予算や制度を動かす仕組みについても語られた。渡辺氏は「動かないものの価値」、すなわち自然や環境、人間の営みそのものを社会の中に取り込むことの重要性を強調していた。震災を契機に、それまでの考え方を見直し、伝統を残しながらも柔軟に切り替えていく姿勢は、私自身の生き方にも通じるものがあると感じた。また、「若いうちにチャレンジすることの大切さ」や「お金の価値を外して物事を見つめ直すこと」、そして「価値観の違う人を取り込むために社会ニーズを活用すること」など、渡辺氏の言葉には、これからの社会を生きる私たちへのメッセージが込められていた。それは、震災を経験した者として、そして福島にルーツを持つ者として、どのように未来に向き合うべきかを考えることに生かされると感じた。

・2日目の最初は、渡部さんの話を聞いたが素直に凄い人からのお話を聞いて良かったと感じた。渡部さんのお話は人としての成長を促すような、この現地研修においてとても良い時間であった。渡部さんの人生の軌跡を通して渡部さんの伝えたいこと、上手く生きるということを知れた。また、植樹体験では現地研修にともに参加した仲間と汗を垂らしながら植樹をしたため、楽しかった。もし行けるなら10年後、20年後には成長した木々を見に行きたい。貴重な苗木を提供して下さった渡部さんには感謝しかない。

<最終日>

・中間貯蔵施設及び帰還困難区域視察の視察を通じて、原発事故の影響がいかに長期的かつ広範囲に及んでいるのかを改めて実感しました。貯蔵施設では、除去土壌の量が東京ドーム約十一杯分に及んでいることに驚愕し、その膨大な量の除去土壌が整然と保管されている様子から、復興に携わる方々の思いやさらなる課題の大きさを痛感した。

帰還困難区域では、災害当時のまま残っており、老人ホームや半壊した公民館等を見て、当時の悲惨さを追体験し、人の気配が失われた街並みを目にしたことで、自然災害の恐ろしさや未だ自分の家に帰ることができない方々がいること実をもって実感し、胸が締めつけられる思いがした。

・ 中間貯蔵施設及び帰還困難区域の視察後の道の駅なみえでは、サーモンシラス丼を食べた。人が多く時間的にも余裕がなかったため、十分に味わって食べることはできなかったが、それでも福島の海鮮は、新鮮でおいしかった。また、家族へのお土産にままだおるを買っていきたかったが、生憎この道の駅では取り扱っていなかったのが残念だった。

引率者として、現場を訪れることの効果とともに、経験を言語化し、さらなる学習につなげることの大切さを感じました。

(文責・武田知己)